

2008年

第21号

おほもと通信

「本能寺の変」の真相
平和な世界のために役立ちたい
あなたの悩み相談室
ほっこりカフェでちょっと一息



「トウネズミモチ」

写真提供 / 花明山植物園 (亀岡市内にて撮影)

トウネズミモチの実によていは女貞かんかといって乾果は漢方で強壯剤に使われます。生の実を味見してみましたが、姿や色に似ず、甘いのです。ナルホドこれなら小鳥の餌になるナ、と。人間と小鳥の好みは違うでしょうが、大体において、甘味のある実は小鳥も好むようです。

人間には強壯剤になるという“実”であっても小鳥には単なる食料だけなのか、または強壯の効があるのか、鳥ならぬ身の知る由もありませんが、小鳥のギャングと言われるひよどり鶺鴒のたくましさは、冬の間、この実をしこたま食べ込んでおくせいかも、と思いつつ、今日も、鶺鴒らしき鳥影がトウネズミモチの小さな茂みに飛び込んでいくのを見ました。

続・**草木によせて**
出口聖子四代教主著
「トウネズミモチ」より抜粋

「本能寺の変」の真相

京都大学名誉教授

上田 正昭

光秀の拳兵は公武合体めくりす！

京都大学名誉教授の上田正昭さんは、我が国を代表する歴史学者として知られ、その研究成果は「上田史学」として高く評価されています。戦国武将・明智光秀は主君である織田信長を京都・本能寺に討つたため、長い間日本の歴史上、稀にみる謀反人、大反逆者として、悪名を轟かされてきました。ところが上田さんは「光秀は《公武合体》をめざし、朝廷を守るため、信長を討つた」との真説を発表し、明智光秀公の真像に迫りながら、汚名を晴らし、名誉回復に努めています。上田さんにインタビューしました。



明智光秀のプロフィールを
ご紹介
ください。

【上田正昭】昭和2年、京都市西陣出身、京都府亀岡市在住、小幡神社宮司。京都大学教養学部長、京都大学名誉教授、大阪女子大学学長、中国・西北大学名誉教授、京都府埋蔵文化財調査研究センター理事長、世界人権問題研究センター理事長、社叢学会理事長、アジア史学会会長、高麗美術館館長、姫路文学館館長。勲二等瑞宝章、南方熊楠賞ほか。
主な著書に「帰化人」「大和朝廷」「女帝」「上田正昭著作全集八巻」「日本人のこころ」などがある。

上田 光秀の幼年期、青年期の史料はほとんど残っていませんが、美濃(岐阜県)の土岐氏の出自(しゅじ)であることは間違いないと見られます。現在の岐阜県可児市(かにし)明智町あたりで誕生したと伝えられています。

最初は浪人をしていましたが、やがて越前の朝倉義景に仕え、朝廷とのつながりを持つようになり、足利幕府の最後の将軍となる足利義昭とも親しい関係を持ちます。そして織田信長と足利義昭が盟約を結びますが、その仲介の労を取ったのが光秀です。能力主義の

信長は、朝廷とのパイプをもち、なおかつ文武両道に長けた光秀を重用しました。光秀は織田軍団のなかでどんどん頭角をあらわしていったわけです。

天正三年(一五七五)、光秀は信長より丹波平定を命じられます。そして、天正四年から五年にかけて龜山城を造ります。

なぜ織田信長は朝廷をないがしろにするようになったのでしょうか。

天正五年十一月、織田信長は朝廷から従二位右大臣右大将の位を与えられますが、翌六年四月にはこの職を朝廷に返上します。信長は天正四年四月から安土城(あづちじょう)

う)の築城にかかり、天正七年五月一日に入城

します。一般には天守閣(てんしゅかく)と書きますが、信長は安土城の七重のてんしゅを「天主閣」という字を当てました。天主はキリスト教でいうテウスのことです。信長は七重の天主閣の一番上のところに黄金づくりの自分の居所を築きます。そして下の層に中国の賢人、あるいは釈迦の十大弟子などの絵を描かせました。これには「天下で一番偉いのは自分である」「自分が天主である」ということを天下に示す意図があったことは間違いないと思います。

それまでの信長は朝廷や足利将軍を立てて、関係を大切にしてきましたが、自らが天下をめざすようになると、足利将軍を追放したり、

朝廷をないがしろにするようになりました。

天正九年二月、信長は京都御所で馬揃(うまぞろ)えを行います。この馬揃えは朝廷に対する示威(せいゐ)じい)行動です。時の天皇である正親町(あうぎまち)天皇に讓位を迫ったわけです。このころ光秀はどのような地位にいたかといえ、前年の天正八年には丹波をほぼ平定し、自分の長女の婿(むこ)の明智秀満が福知山の城主、龜山と坂本は光秀が城主となっています。丹波だけで二十九万石、近江の興(きよ)賀郡を中心に四万石、あわせて三十四万石の大名です。秀吉よりも石高は上です。天正八年に信長が出した書状には、光秀軍功第一と書いてあります。いかに信長が光秀をこの段階では信頼していたかがよく分かります。

天皇をいえ自りを神とした信長の傲慢

「うごうごん

公家(くげ)の勅修寺晴豊(かじゅうじ)はれど、の日記に、天正十年四月二十二日に勅使として安土の織田信長のもとに赴いたことが記されています。天皇は信長に対し、「関白になられるのか、太政大臣になられるのか、征夷大将軍(せいゐたいしゅうぐん)になら

また信長は天正十年五月、本能寺の変の前月ですが、朝廷無視の明確な態度を取ります。宣教師ルイス・フロイスの日記によりますと、光秀が本能寺に討ち入る十九日前、安土の總見寺(そうけんじ)に信長は自らを「神」にして、自分の神体像を納めています。

つまり自分は神で、不滅である。朝廷も大名も自分(信長)を拜めというわけです。これを拜めば功德がある。これを拜まない者には天罰がくだる。そして自らの誕生日を、「天下の公の聖なる日」にする。日本の神や仏も己(信長)を崇めよと宣言したのです。フロイスはその当時のことを詳しく書いており、朝廷を無視するということは、光秀にとっては耐え難いことであつたと思います。

『ときは今あめが下知る五月かな』の真意は。

私は二ついう状況があつたということをお前提にして、光秀の本能寺の変を考える必要があると考えています。明智光秀という人は

「あめが下知る」は天皇の治世を詠んだ歌

五月二十七日、光秀は愛宕山あたら(ごん)に参詣し、里村紹巴(さとむらじょうば)はらと連歌の会を催しています。そのときに詠んだ歌が有名なときは今あめが下知る五月(さつき)かな』です。

従来の解釈では光秀は土岐氏ですから、「とき(土岐)は今」、「あめが下知る五月かな」は治天下、つまり天下を自分(光秀)が取る五月であると解釈され、光秀の野望説がいわれていました。しかしながら私はこの野望説には賛同いたしません。「あめが下知る」というのは天皇の世という意味だからです。治天下というのは中国の古典の漢書や孟子(もうし)など

「公武合体論者」でした。朝廷と武家が互いに手を取り合つて、この世を維持しようというのが基本的な姿勢です。

本能寺の変の動機には、朝廷側が光秀をそのかして信長を打倒させたとか、あるいは足利義昭の命を受けて信長を討つたとかの説もありました。また怨念・遺恨説などもありますが、これを証明する史料はありません。

光秀と朝廷のつながりはかなり早くからありました。永禄十二年(一五六九)、宇津頼重が丹波国の禁裡(きんり)御料所のひとつである山国荘を横領しました。その折、光秀はその違反を停止させ、もとの御料所にもどしました。そのころから朝廷の親任を得て、吉田兼見(かねみ)、勤修寺晴豊、近衛前久(さきひさ)といった有力公卿とも親交がありました。

光秀は、信長の朝廷無視の姿勢が容認できなかつた

織田信長の大変不遜な朝廷無視の行動は、天正六年の右大臣の返上にはじまり、天正九年、十年とますます露骨になっていることが勤修寺晴豊の日記によって明らかになってきました。

こうした信長の朝廷無視の姿勢に対し、光秀は意を決して、天正十年六月二日の未明に約一万三千の軍勢を率いて本能寺に討ち入り、織田信長を倒したのでしよう。

私の申し上げていることが単なる思いつきでないことは、本能寺の変後の光秀の行動を詳細に調べていくと分かってきます。六月七



明智光秀肖像画(岸和田・本徳寺蔵)

にもできてきますが、中国皇帝が使う用語です。日本では大王や天皇が使う用語です。光秀は「天が下をしるしめす」、つまり天皇の世にすると詠ったのだと思います。光秀のように漢籍に詳しい教養のある人物が、不遜(ふそん)にも「治天下」という言葉を自分に対して使うはすがありません。

日には吉田兼見が正親町天皇の第一皇子の誠仁(まことひと)親王の令旨(りょうじ)を持参して安土城にきています。その令旨には「京都の守護は光秀に任せる」と書かれてありました。そこで光秀は京都に上洛したのでした。京都に入った光秀は十日には正親町天皇の拜謁(はいえつ)を許され、天皇に面会しています。その意味からも「あめが下知る」の歌の真意は、光秀自身が天下を独占するのではなく、天皇による治天下であると解釈しています。

また本能寺の変後、家臣の斎藤利三などは「京都で秀吉軍と戦えば負けるので、大津の坂本城に籠城して迎え撃とう」と進言しました。光秀は「それでは京都を守れない」と考え、結局、不利な山崎の戦いに敗れています。京都の守護を命じられた光秀は、京都を戰場にすることが耐え難かつたのではないかと私は考えています。

出口王仁三郎師と明智光秀と龜山城

明智光秀が築いた龜山城は現在、宗教法人大本の本部になっていきます。大本教祖の出口王仁三郎師は龜岡の出身です。幼い頃より龜山城址にひかれ、「暇(ひま)あれば龜山城址に忍びひきて無言の銀杏(いちょう)といつも語り、旧城址落ちたる瓦の片(きれ)あつめ城のかたちをつくりて遊びぬ」といった歌を詠まれています。出口王仁三郎師が大正八年(一九一九)に龜山城址を買収される以前から、龜山城に深い思いを寄せておられたことは紛れもない事実です。また『神靈界』に「龜山は万代不易の皇室擁護の活動地である」と書かれているのを知って、私はたいへん感銘いたしました。



バトエルデネ・
トゥメンウルジーさん
(モンゴル)

モンゴルと日本の架け橋になり

平和な世界のために役立ちたい

今年の人類愛善会モンゴルセンター完成慶祝訪問団の現地通訳を務めたバトエルデネ・トゥメンウルジーさん(通称トム君、モンゴル文化教育大学四年生)が、この夏に約三週間日本に滞在し、本部での青年祭や北海本苑のあしわけ大本歌祭、地方の神の家などを訪れました。トム君に今回の来日の印象などを伺いました。

本年六月、モンゴル訪問団の通訳を担当されたきっかけは

トム 以前から学費を稼ぐために、中学から勉強していた日本語で通訳のアルバイトをしており、モンゴルセンターの方から声を掛けていただきました。人類愛善会については、パンフレットを読み、モンゴルセンターの方に話を聞いて初めて知りました。世界の壁を乗り越えてより良い世界にしようという活動や、モンゴルの子供たちを援助しようと熱い思いで活動していただいていることに感動し、皆さんと出会えたことを本当にうれしく思いました。

訪問団との一週間はいかがでしたか

トム 皆さんに大変優しくして

いただきました。特に感動したのは、皆さんが祭典の準備や子供たちへの贈呈品の準備などを協力してされている姿です。モンゴルでは家族単位の移動式生活の歴史が長く、大勢の人と協力するという経験があまりありません。ですから、大勢の人が協力して人のために何かしようとしている姿を見て、心と心のつながりが大切だと感じました。

また、祭典や茶道など日本の伝統文化を見て、細かなところまで心を込めてきつちりと動作がなされているというように感じました。

今回の来日は以前から決まっていたのですか

トム 訪問団が帰国された後、訪問団の一人の方とメールを交

換していました。

その中で訪問団に参加された有志の皆さんが私を招待したいと言っていると連絡を受けました。はじめは夢をみているようで、何度もメールを読み返しました。

ビザの申請などをする中で、夢が少しずつ現実になっていきました。

実はモンゴルではビザを取得するのは大変困難なことです。しかし不思議なことに、ビザの申請から取得まで、いろいろな手続きのタイミングがスムーズに進みました。もし、この手続きが少しでも遅れていたら、私は



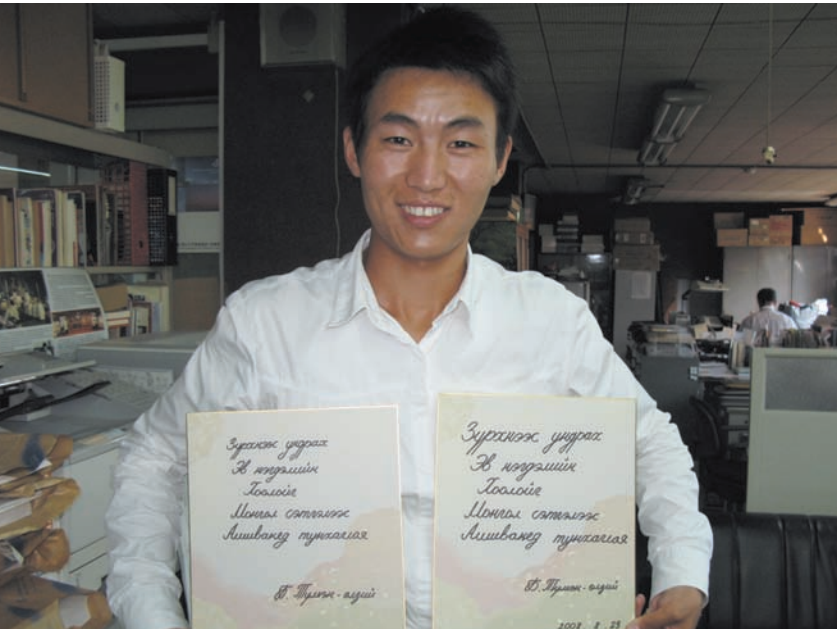
今ここにいなかったと思います。

私の家族やモンゴルセンターの皆さんもビザが順調に取れたことに驚いていました。本当に神さまと招待していただいた皆さまの熱い気持のおかげです。

センターの方からは、「皆さんの熱い気持を忘れずに、いろいろなことを見て勉強してきて



「多くの友人ができた」という青年祭で、日本、ブラジル、韓国の青年らと（後列左から2人目がトム君）



心の底から平和への願いをモンゴル人として、あしわけの地でお祈りします

ください」という温かい言葉をいただいたいて日本にやってきました。

日本の印象は

トム 実は日本は今回で二回目です。昨年、モンゴル国内で行われた日本語の作文コンテストで優勝して、二週間ほど、東京と千葉に滞在しました。

今回は亀岡をはじめ、四国の鳴門や今治、愛媛本苑も訪問しました。今治の海では、初めて

海水浴もしました。

亀岡では、人間と自然が交流していることを感じ、良いエネルギーがわき出しているように思いました。

青年祭にも参加されましたね

トム たくさんの青年と友達になり、楽しい雰囲気の中で多くのことを学び、発見し、感動をもらいました。

私は人間が持つ無限の才能は

助け合うことで引き出されると

思っています。青年祭では、心と心を通わせることで自分の可能性も引き出され、大勢の人が集まったことでさらに大きな可能性が生まれていくように感じました。青年祭は素晴らしい祭典でした。

写真部門で第二位に入賞されたそうですね

トム モンゴルのことを知って

ほしいと思ひ、モンゴルの風景

写真を出品しました。まさか賞を頂けるとは思っていなかったため、本当にうれしかったです。

北海道の

あしわけ大本歌祭にも参拝し、歌も献詠されたそうですね

トム 世界の平和のために、いろいろな国の人が自国の言葉で祈りをささげるという事は素晴らしいです

ね。私は「モンゴル人として世界平和への願いを芦別にお祈りいたします」という内容の歌をささげました。

チベットや中国の留学生も来ていて仲よくなることができました。世界ではいろいろな問題が起きていますが、歌祭を通して世界は一つなんだと感じました。

日本での経験を今後どのように

トム 貴重な体験を通して、日本との距離がいつそう近くなったように思います。まず、ご招待くださった皆さまに心から感謝いたします。

この無限の宇宙の中で、皆さまとお会いできたのは神様のご縁だと思ひます。そのご縁を大切にしていかなければならないと思ひます。

私はモンゴル青年の代表として学んだと思ひますので、モンゴルに帰ったら青年を集めて自分が感じたそのままを伝えたいと思ひます。そして、今回知り合った多くの日本の友人やモンゴルセンターの皆さんと手をつないで、平和な世界のために役立ちたいと思ひます。

恋愛を成就させるには 距離と時間を縮めることから

幸福を求めめる心

人生はお互いに思い思われて、なつかしく、ありがたく感じ合うところに本当の幸福がある。

とにかく、人間は真にあいゆるした一人を欲しているものだ。その一人がないということは寂しいことと違くない。



「生きがいの探求」 出口日出磨著)より

Q 社員の夫はまじめな性格で仕事人間です。上司や同僚の信頼も厚く、課長として仕事に打ち込んでいます。単身赴任で三年になりますが、最近、夫の様子がおかしいのです。職場にバツイチのパートの女性があり、相談に乗っているうちに同情以上の感情をもってしまったようです。夫は家庭を崩壊させる気はないとっていますが、心配で不安です。会社の上司に相談すべきでしょうか。(五十代、女性)



回答者 猶子 恒 (教務局次長)

1953年北海道生まれ。大本梅松塾出塾後、大本本部に奉職。89年宗教文化交流使節として、NY聖ヨハネ大聖堂に滞在。日本伝統文化を紹介し、キリスト教文化を学ぶ。宗教協力推進室主幹、東京本部宣伝部長を経て、現在は案内や相談を担当。

A 三年の単身赴任、ご主人と距離を隔てているだけに、ご心配ですね。

さて「会社の上司に相談すべきか」というお尋ねですが、まずは、事実関係の把握が先ではないかと思えます。

「質問にはあなたの言葉として」「同情以上の感情をもってしまったようです」とあり、ご主人は「家庭を崩壊させる気はないといった」ということですが、これだけでは事実がわかりません。例えば、浮気の手前なのか、浮気を認め、もうしないと断っているのか、これがかきりしてなければ、相談といっても、上司もお困りになると思えます。

そこで、まず、あなたが単身赴任のご主人のところを尋ね、食事でもしながら、ゆつくりと話し合いをされるのを一番にお奨めます。

若いころ「恋愛の法則：成就させるには、距離と時間を縮めること」というのを

聞いたことはありませんか。こちらから出向くことは貴女がご主人に近づくことであり、ご主人が相手と女性との距離をおくことにもつながるはずですよ。

「真面目な、上司や同僚からも信頼の厚い」といわれているご主人なので、いろいろ詰めるのではなく、あなたも信じて、いろいろ話し合いなされることです。話せばご主人の気持ちや行動がわかると思います。あるいは「隠していることがある」と直感するかもしれませんし、結果的に、深刻な事態を知ることになるかもしれません。

そういう時は、会社の上司も含め、第三者への相談も必要で、その方々の手助けを借りて解決に向かうべきだと思います。

そんな中で、「一つ心がけて」と思うことがあります。それは相手の女性の「真の仕合せ」も念じてほしいということです。腑に落ちないかもしれませんが、これが案外、早い解決につながるものと信じています。



エスペラントでの、簡単な会話を紹介します。

<p>シイ ハーヴァス トリイ Si havas tri infanojn.</p>	<p>シイ エスタス ミア オンクリーノ Si estas mia onklorino.</p>
<p>イーリイ エスタス トリイ 4エメーロイ Ili estas tri ĝemeloj.</p>	<p>シイ エスタス プリユーナ フラティーノ Si estas pli juna fratino de mia patro.</p>

- ① Si estas mia onklorino.
=彼女は私のおばです。
- ② Si estas pli juna fratino de mia patro.
=彼女は、私の父の妹です。
- ③ Si havas tri infanojn.
=彼女には、3人の子どもがいます。
- ④ Ili estas tri ĝemeloj.
=彼らは三つ子です。

解説

onklorino= おば。伯母、叔母という使い分けはしません。「fratino = 女のきょうだい」も姉、妹という使い分けはありません。ただし、「pli juna = より若い」をつけて、「pli juna fratino = 妹」とすることもできます。pliaĝa frato= 兄

ほろりカフエ

大奮闘の子育て通じて親も成長

わが家の一日は、生後六カ月の息子が一番初めに目を覚まし、バタバタと動き回ることから始まります。隣で寝ている私の顔をドカドカ力けられることもしばしば。おしまいはプツとおならをかける、起きずにはいられなくなり、息子には「おはよう」と声をかけると、ニヤツと笑います。そうして始まる一日は、まさに大奮闘の連続です。それだけに、いかに時間を有効に使うかが鍵となります。

「息子が寝ている間に」と、私は家の中でさえ、いつもいそいそ、小走りし家事を進めます。

「できる時にしておかなくては！」と思うと、いつい後回しにしてしまおうようなことでも意外とできてしまいます。

一方、息子は自分の不快なことは泣いて表し、欲求を満たすために頑張ります。寝返りをうち、泣くので元の状態に戻してやる



と、またすぐにクルッと返って泣く繰り返しです。

でも、毎日同じことをしているようで、日ごと成長していくかわい子どもの姿を見ていられるのも、親の特権なのかもしれません。

夫と二人の生活に、新しい家族が加わったことにより、今まではなにも自分に関係の無かったことに、いかに無関心で過ごして来たことかと、あらためて考えさせられます。

「神さまから授かった天使。親にとって、これほどかけがえの無い存在はありません。私の子育てはまだまだ始まったばかり！」

親として学ばべきことはたくさんあります。

息子の成長とともに、力強く頼もしい一家を目指して、これからも頑張っていきたいと思えます。

かがやく

ろまん

濃い青と白の鋭い対照

これは白化粧の上を濃い青色でおおっている。

所々に豎のへらがあつて、みぞが作られている。

其処が塗り残されて白くなっている。

すその所々にうすい黄色がさしてある。

形は極めておだやかで、女らしさがあるが

濃い青と白の対照が鋭く、山姥といわれる

にふさわしい。意志の強い老女の感じがする。

高台の周囲に筋がないのは、女性らしさが

あつていい。

見込はやや紫がかつたうす赤色である。

磯野風船子師評(元日本陶磁協会常任理事)

(「耀盃」出口王仁三郎茶盃名品より)



耀盃「山姥」
やまむぼ

「世界平和を目指し取り組んでいる活動」

- 1 「いのち」を守るための生命倫理問題
- 2 「共生の世界」実現のための平和問題
- 3 「食の安全」を守るための食・農・環境問題
- 4 「美からの門戸」を開くための芸術文化活動
- 5 「一つの世界」実現のためのエスペラント運動

大本本部ホームページアドレス <http://www.oomoto.or.jp/>

【お問い合わせ】〒621-8686 京都府亀岡市天恩郷 大本本部 教務局
TEL. 0771-22-5561(代) FAX. 0771-22-5926

【発行】株式会社 天声社

〒621-0815 京都府亀岡市古世町北古世82-3

TEL. 0771-24-7523 FAX. 0771-25-3655

定価 1部20円(送料別)/送料込価格 1部120円(隔月刊/年間購読720円)
振替口座 京都 01010-9-25757 加入者名 株式会社 天声社